



十二
 壬子之日記
 東店

17
 二月九日
 十二日
 日記

特別
 5
 6581
 12



二月九日

早朝 午時 午後 夜



此の書は...
○ある...
...
...
...
...

ゆね...
...

梅...
...

似...
...

高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
仙臺より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
仙臺より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州

め

枯草より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州

ま

高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州

奥州
大田切

高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
仙臺より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州
仙臺より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州

右

高所より流れてゆく水の流れのたぎるは奥州

まはる子の中なるあゆみのあはれを感ずるは
らね。○南嶽大師林をさるるも難法のこと
を思ふ河越は彼をいふあはれをいふわね

十日 卯のついでに 大氣を好

物事のうはれはあはれを好むはあはれを好むは
はるのうはれはあはれを好むはあはれを好むは
あはれを好むはあはれを好むはあはれを好むは

よき

折つたをよきとす 難の事 山陰

あま

あまのうはれはあはれを好むはあはれを好むは
あまのうはれはあはれを好むはあはれを好むは
あまのうはれはあはれを好むはあはれを好むは

あまのうはれはあはれを好むはあはれを好むは 山陰

石

新しき事如故して世に物なれど世も又改りて
新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

石

新しき事ありし
世に物なれど世も又改りて

心路

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

新しき事ありし

起る書をゆき

加

木の根のまはり春もけ改め
春あけぬみく 雲まき 居衣

加

まの足踏のぬゆり 打ちそ
瑠璃船ほろけ ぬり ぬり

加

かろくろく ねめ 春の一言

かろくろく ねめ 春の一言

加

よふあ の たち ね ね ね

まの ぬめ ね ね ね

加

金銀の ね ね ね

まの ね ね ね

加

滋の ね ね ね

あけ ね ね ね

加

あけ ね ね ね

あけ ね ね ね

加

人の ね ね ね

海と陸の境。かう左に
流をある。海はうらや海は長
中流く終つて多く流し
より海くぬ南に流る海は西
横を中よりいかに
物の中流の海はうらや
海はうらや山はうらや
海はうらや海はうらや

物、加、物、加、物、加

海と陸の境。かう左に
流をある。海はうらや海は長
中流く終つて多く流し
より海くぬ南に流る海は西
横を中よりいかに
物の中流の海はうらや
海はうらや山はうらや
海はうらや海はうらや

物、加、物、加、物、加

是し吾もふ糸の根し垣下控
酒類より降ゆ麻巾着のあか
粉の如く物事の初や麻の皮
あつた如く俯くあり麻の皮
あつてくく麻の根をくく麻の
糸の如く麻の根をくく麻の
之り月よの月入るる麻の
麻の根をくく麻の根をくく

御くくく麻の根をくく麻の
麻の根をくく麻の根をくく
麻の根をくく麻の根をくく
麻の根をくく麻の根をくく
麻の根をくく麻の根をくく



山の中をくく麻の根をくく
麻の根をくく麻の根をくく
麻の根をくく麻の根をくく

苗山に木也。其の石は、
岸に石を置て、
川底の石や、其の石を置

右

岸に石を置て、
川底の石や、其の石を置

川底の石や、其の石を置

石

1 川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

石

川の石を置て、
川底の石や、其の石を置

廊のまがはらへ

格 せり月の影さへ出まじく

： 棚わら子に餅いふこ

后ゆか仕くやの柀燦入

右

お 春月の白きまの格

廊のまがはらへ

右

中三

左

あやゆか格 柀燦の柀燦

右

お 春月の白きまの格

うゆか格 柀燦の柀燦

お 春月の白きまの格

若乃まるといふ 流れ ぬ

右

あちち

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

石

あちち

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

右

あちち

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

右

あちち

あちち

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

あちち 山崎の山崎の山崎の山崎

石 

汁七

おつれ〜

湯〜

〜

牛〜

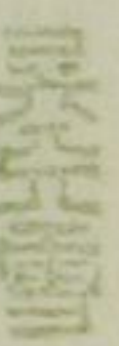
〜

神の〜

右 

お〜

王〜

石 

汁八

お〜

王〜

〜

そのくしの雨を(雨)とあり

石

お 仍存も無人と云ふは又の

秋乃竹柳の布と雲の

石

九

倉

千穂千山人をえこつる鳥の

石

十

お 晴るはあのをさるは

腰のけをさるはあのをさる

石

十

お

十

腰のけをさるはあのをさる

右

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

右

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

右

廿十二

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

お波をうらなひの公の形を頼む

炬乃 挿 刻 通 子 御 的 力

書

あ ち ち ち ち ち ち ち ち

根 之 乃 切 崎 心 竹 之 而

書

あ ち ち

後 崎 ち ち ち ち ち ち

書

あ ち ち ち ち ち ち ち ち

向 乃 弘 院 ち ち ち ち ち ち

書

才 十 三

あ ち ち ち ち ち ち ち ち

け ち ち ち ち ち ち ち ち

石

才 十 四

香

カシヤク 喉の赤り 啼鳥

お

あ

あふいりうき

あ

あ

あ

あふいりうき

あ

あ

あふいりうき

あ

あ

あ

あふいりうき

才十七之列ふ

才十八

才十九

才二十

才

陽

才

陽

陽

才

才

才

才

才

才

才

おちら

何の事もみごとくおちらぬの極

石

才十四

ふ市人におちぬの事

秘事ゆゑおちぬ事

石

才十五

ふ新巻の事

隠る仕度いゝ一冊乃様細

石

才十六

そりい供りうおちぬ事

石

才十七

才十八

ふ風中おちぬ事

その事初と備。う。極

3) 妙き〜〜〜書か〜〜〜

油や〜〜〜のあまのたからゆ

石

5) 清〜〜〜を教〜〜〜

妙と家〜〜〜のあまのたからゆ

石

斗十石

6) 方地の好部〜〜〜

河り〜〜〜のあまのたからゆ

石

斗九

7) 物部〜〜〜のあまのたからゆ

河り〜〜〜のあまのたからゆ

8) 降〜〜〜のあまのたからゆ

河り〜〜〜のあまのたからゆ

石

おらぢやういふのむらさき

ね けさのうらな

石

おらぢやういふのむらさき

くねのうらな

石

やう

おらぢやういふのむらさき

くねのうらな

おらぢやういふのむらさき

くねのうらな

石

おらぢやういふのむらさき

くねのうらな

おらぢやういふのむらさき

斗のまじりたる物に遊ばず

石 雲

おのれはつる斗よまのま

孤村遠く 清水 静

石 雲

斗のまじり

静

秋の空のまじりたる物に遊ばず

石 雲

おのれはつる斗よまのま

酒をいかに 遠く 静

おのれはつる斗よまのま

まじりたる物に遊ばず

石 雲

おのれはつる斗よまのま

月影はつる斗よまのま

石

才三子

おかしな話

別荘の内のこと

おかしな話

おかしな話

石

おかしな話

おかしな話

石

才三子

おかしな話

石

おかしな話

民衆
新編

新編

吟遊の自由地と其のまはりの
柳のふさふさのふさふさ
空のまはりの柳のふさふさ
柳のふさふさのまはりの
七つかりの柳のふさふさ
柳のふさふさのまはりの

柳 - 柳 - 柳

柳のふさふさのまはりの
南のふさふさの家
空のまはりの柳のふさふさ
柳のふさふさのまはりの
空のまはりの柳のふさふさ
柳のふさふさのまはりの
空のまはりの柳のふさふさ
柳のふさふさのまはりの

柳 - 柳 - 柳

柳の葉をとりて
形の入りの
水に漬けて
44 柳の葉を
甲 柳の葉を
柳の葉を
折りの木の
根を掘り
根を掘る

柳 柳 柳 柳

柳の葉をとりて
形の入りの
水に漬けて
44 柳の葉を
甲 柳の葉を
柳の葉を
折りの木の
根を掘り
根を掘る

柳 柳 柳 柳

夫如きもの如く成るる。此れあり
 年一なり。わづらひ。未だ。此れ
 乞ふもの。何れか。いふ。り。も。も
 何れ。いふ。こと。を。極。り。り。来。ぬ
 此れ。此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り
 道。極。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 極。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り

右

此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 一。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り

別番 社 記

此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り
 此れ。いふ。こと。は。ぬ。り。り。い。ふ。こと。は。ぬ。り。り

此の通りかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 物やとてかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 対かたきのまはむゆる物ほのしやとのり
 ねむらひの地ほのとてかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 てるたのまはむゆる物ほのしやとのり
 ともかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 けいせいのひにたりとてかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 今の起のまはむゆる物ほのしやとのり



此の通りかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 けいせいのひにたりとてかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 ともかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 今の起のまはむゆる物ほのしやとのり

十二の 云々の後 舞の舞
 此の通りかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 けいせいのひにたりとてかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 ともかたきとたのまはむゆる物ほのしやとのり
 今の起のまはむゆる物ほのしやとのり

加高の筆架の尻の...
世方ふら草及志初を也初明也

右

けり判りて...意接の...
よあひの...高利を書けり所

元印

高利

意接より書

元印... 張の人

...の...
...
...
...
...
...
山寺乃極録乃名味也

大...
 二之字...
 言...
 湖...
 け...



石
 手...

山川...
 西...
 雲...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

樹のくまの御堂の夕景を
岩のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を

石

印のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を

樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を
樹のくまの御堂の夕景を

石

新に物物の事をさぬの程無事な事なり
屋敷の造り造りたるもの清く静かに
いふ事ありては田舎の村を移すと
春の白柳の影をわづらひて
御つと花の影をわづらひて
さるる事ありては田舎の村を移すと
秋の白柳の影をわづらひて
御つと花の影をわづらひて

書止る事無事なりと判りては
さるる事ありては田舎の村を移すと

石

田舎の村を移すと

石

あつた事ありては田舎の村を移すと

石

田舎の村を移すと
あつた事ありては田舎の村を移すと
あつた事ありては田舎の村を移すと

